

自然共生サイト 渡邊野鳥保護区フレシマ

(北海道根室市)

公益財団法人日本野鳥の会
自然保護室 苫小牧グループ
シマフクロウ・タンチョウ保護事業担当
松本 潤慶

日本野鳥の会について

- 昭和9年創設（今年で90周年）
- IBA（重要野鳥生息地）の選定
（2003年に陸上、2016年に海洋）

EADASにも掲載

- 野鳥保護区の設置と管理
購入や個人・企業との協定で45か所

「野鳥も人も地球の仲間」

野鳥をシンボルに、生物多様性保全に取り組む

自然保護団体です





各種鳥類の調査研究活動



自然環境の管理活動



子どもたちへの普及教育



- 探鳥会の開催
- 物品の企画・販売
- 野鳥の密猟対策
- 野鳥と人との共存の仕組みづくり

希少な鳥類の生息地保全も、主要な活動の1つ



シマフクロウ

絶滅危惧ⅠA類・国の天然記念物



国内希少野生動植物種

生息環境：河畔林／周年

保全状況：絶滅危惧ⅠA類（環境省レッドリスト）

国内希少野生動植物種（環境省）

国の天然記念物（文化庁）

個体数：160羽程

全長：70cm

翼開長：180cm

体重：4kg

食物：魚、両生類、哺乳類など

タンチョウ

絶滅危惧種Ⅱ類 国の特別天然記念物



国内希少野生動植物種

生息環境：池沼・湿原／周年（短い渡り）
保全状況：絶滅危惧Ⅱ類（環境省レッドリスト）
国内希少野生動植物種（環境省）
国の特別天然記念物（文化庁）

個体数：1,800羽程

全長：150cm

翼開長：240cm

体重：6kg

食物：魚、甲殻類、両生類、植物など

チュウヒ

絶滅危惧種 I B類



国内希少野生動植物種

生息環境：湿原（ヨシ原など）／夏

保全状況：絶滅危惧 I B類（環境省レッドリスト）

国内希少野生動植物種（環境省）

個体数：300-450羽程（国内繁殖136つがい）

全長：48- 58cm

翼開長：113-137cm

体重：0.6- 0.8kg

食物：小型哺乳類など



Q. 生息地を保全すると何が良いの？

対象種を守る
湿原：タンチョウ・チュウヒ
森林：シマフクロウ



生息地を保全することで



そこに住む生き物
全体を守ることができる





その環境全体を守ることに繋がります

日本野鳥の会の生息地保全活動の歴史

1981年 ウトナイ湖（北海道苫小牧市）の湿原を保全するため 国内初のサンクチュアリを設置

275haの湖を含む510haの湿原

1981年 湖畔にネイチャーセンターを設置

- 観察や保護の拠点となる施設
- 1億円の募金を集めて建設
- 土地は苫小牧市所有

1991年 ラムサール条約に登録され保全が進む

ラムサール条約：特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約

1986年 会員より土地の寄贈を受け、静岡県沼津市の山林を取得。当会初の「**野鳥保護区**」を設置。

小鷲頭山野鳥保護区 (2.3ha)

Q. 野鳥保護区って何？

タンチョウやシマフクロウなど
希少な鳥類の生息地を保全するため

- ・ 法的な保護指定が無い地域、あるいは弱い地域を、
- ・ NGOである日本野鳥の会が、買い取りや所有者との保全協定を結ぶことにより、
- ・ 日本野鳥の会が存続する限り永続的に確保する。



皆さまからのご寄付をもとにして、
土地の購入やその後の管理活動を実施しています。

1987年 競売に出ていたタンチョウの繁殖地を
開発から守るため、寄付金をもとに購入。
北海道における野鳥保護区のスタート。

持田野鳥保護区東梅（7.6ha）

2004年 根室地域のシマフクロウ生息地を購入。
シマフクロウの野鳥保護区の始まり。

持田野鳥保護区シマフクロウ根室第1 (7.6ha)



渡邊野鳥保護区フレシマ

所在地：北海道根室市 設置：2004年 面積：
203.7ha





フレシマで分布が確認されている絶滅危惧種

レッドデータ ランク	種名	レッドデータ ランク	種名
絶滅危惧ⅠA類	キヨシソウ	絶滅危惧Ⅱ類	ネムロコウホネ
	ヒメウシオスゲ		ホザキシモツケ
絶滅危惧ⅠB類	シコタンキンポウゲ		オオバタチツボスミレ
	イトキンポウゲ		ヒメツルコケモモ
	トモシリソウ		ネムロシオガマ
	エゾネコノメソウ		ネムロブシダマ(チシマヒョウタンボク)
	エゾゴゼンタチバナ		キタノコギリソウ(ホロマンノコギリソウ)
	クシロハナシノブ		オオシバナ(シバナ)
	エゾナミキ(エゾナミキソウ)		タカネトンボ
	エゾヒョウタンボク		ネムロスゲ
	シコタンタンポポ(ネムロタンポポ)		エゾサワスゲ
	ヒロハトンボソウ		フタマタイチゲ
絶滅危惧Ⅱ類	ヒメハナワラビ	準絶滅危惧種	ヒメワタスゲ
	シコタンハコベ(ネムロハコベ)		



27種の希少種を含む
 335種の植物が確認されている

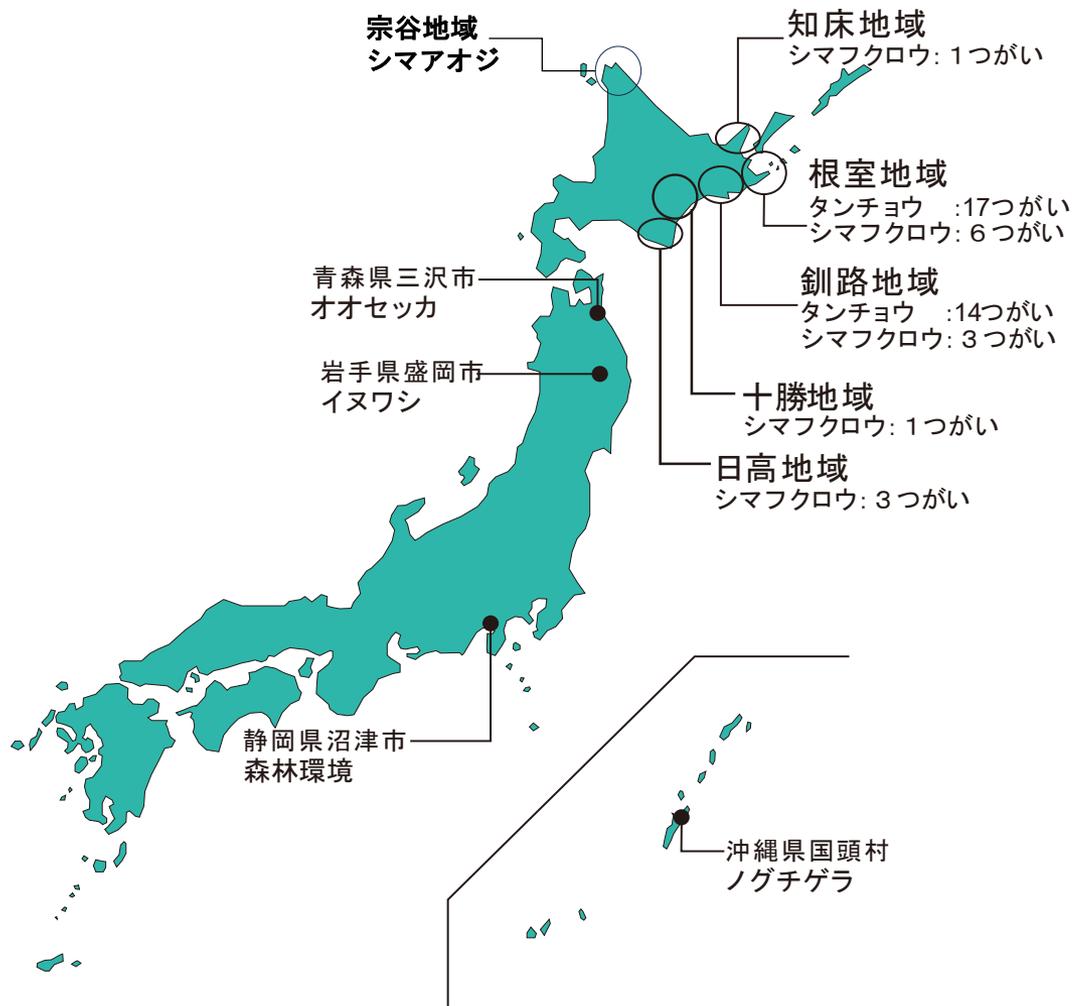
フレシマ周辺地域で生息が確認されている絶滅が危惧される鳥類

レッドデータ ランク	目	科	種	学名
絶滅危惧 I A類	チドリ目	ウミスズメ科	ウミガラス	<i>Uria aalge</i>
			ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>
			エトビリカ	<i>Lunda cirrhata</i>
絶滅危惧 I B類	タカ目	タカ科	オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>
絶滅危惧 II 類	ツル目	ツル科	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>
	チドリ目	ウミスズメ科	ケイマフリ	<i>Cepphus carbo</i>
準絶滅危惧種	チドリ目	シギ科	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>
	タカ目	タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>
情報不足	チドリ目	ウミスズメ科	マダラウミスズメ	<i>Brachyramphus marmoratus</i>

19種の希少種を含む 116種の鳥類が確認されている



2024年現在、野鳥保護区の面積：3998.6ha



企業の寄付金を元に購入し
設置できた野鳥保護区

三菱UFJ信託銀行野鳥保護区酪陽

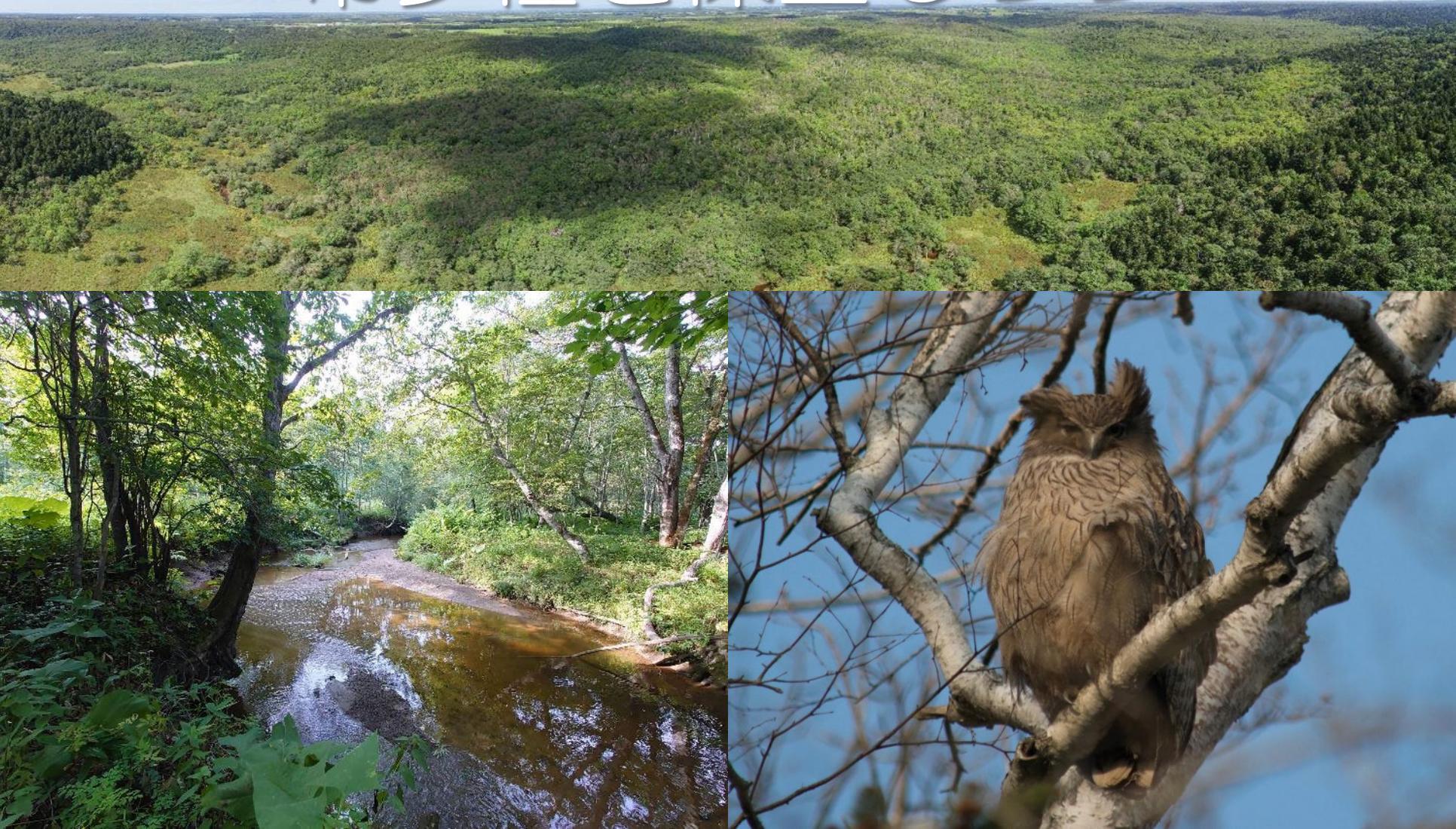


企業と保全協定を結び 設置できた野鳥保護区



日本製紙野鳥保護区
シマフクロウ根室第3

企業が持つ民有地。 希少種を保全しつつ





現在も利用している森
どう守る？

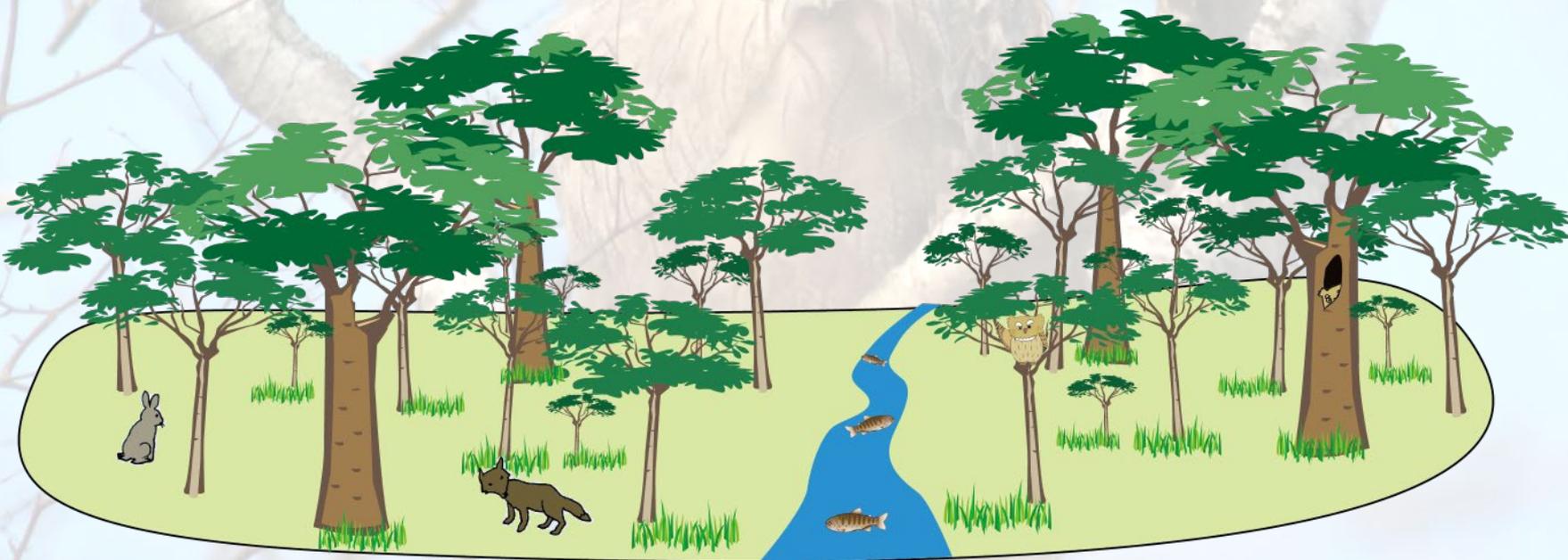
シマフクロウの生息地保全と 日本製紙株式会社の事業の両立に関する 覚書



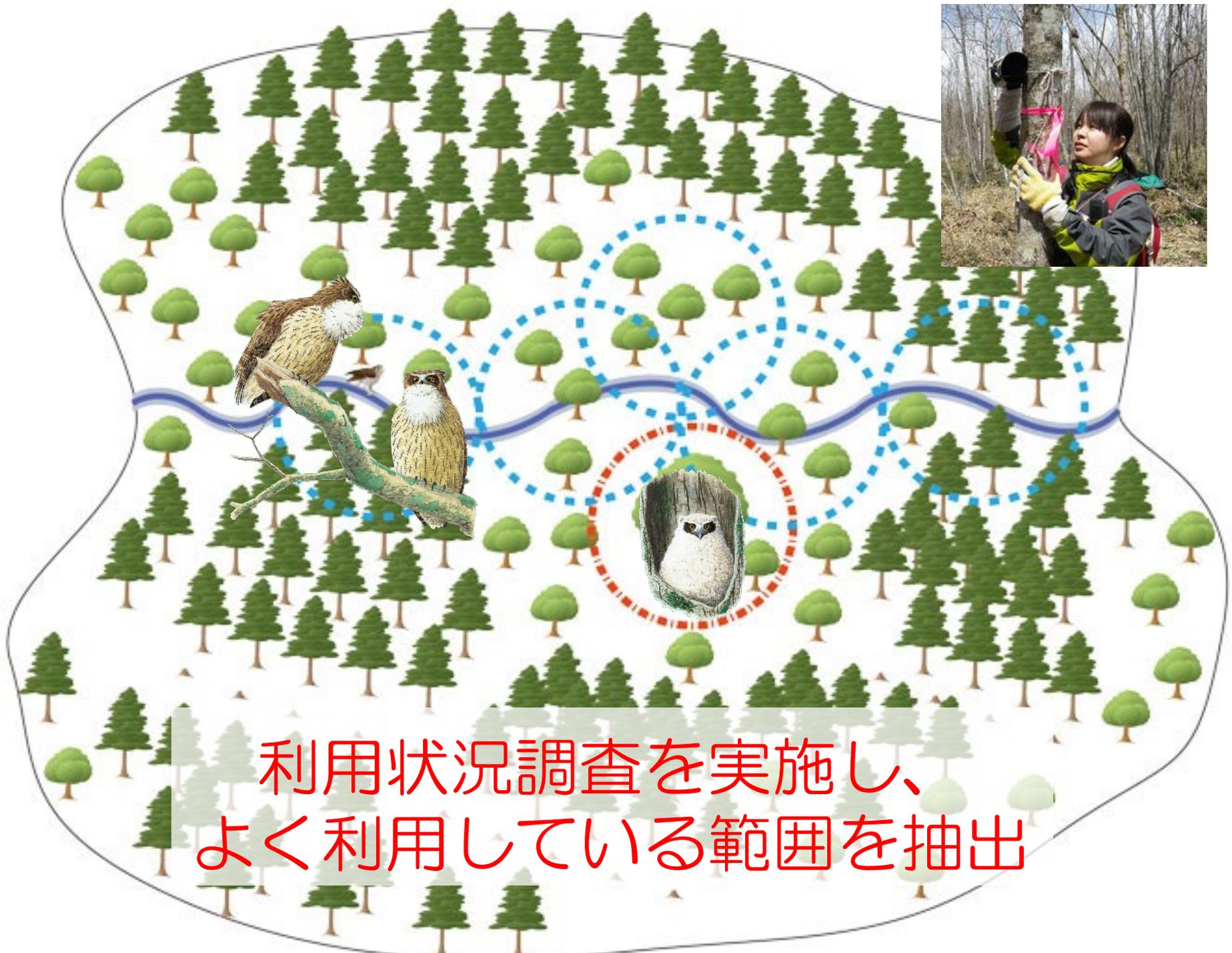
2015年5月13日 覚書を取り交わす

利用しつつ生息地保全を両立させる

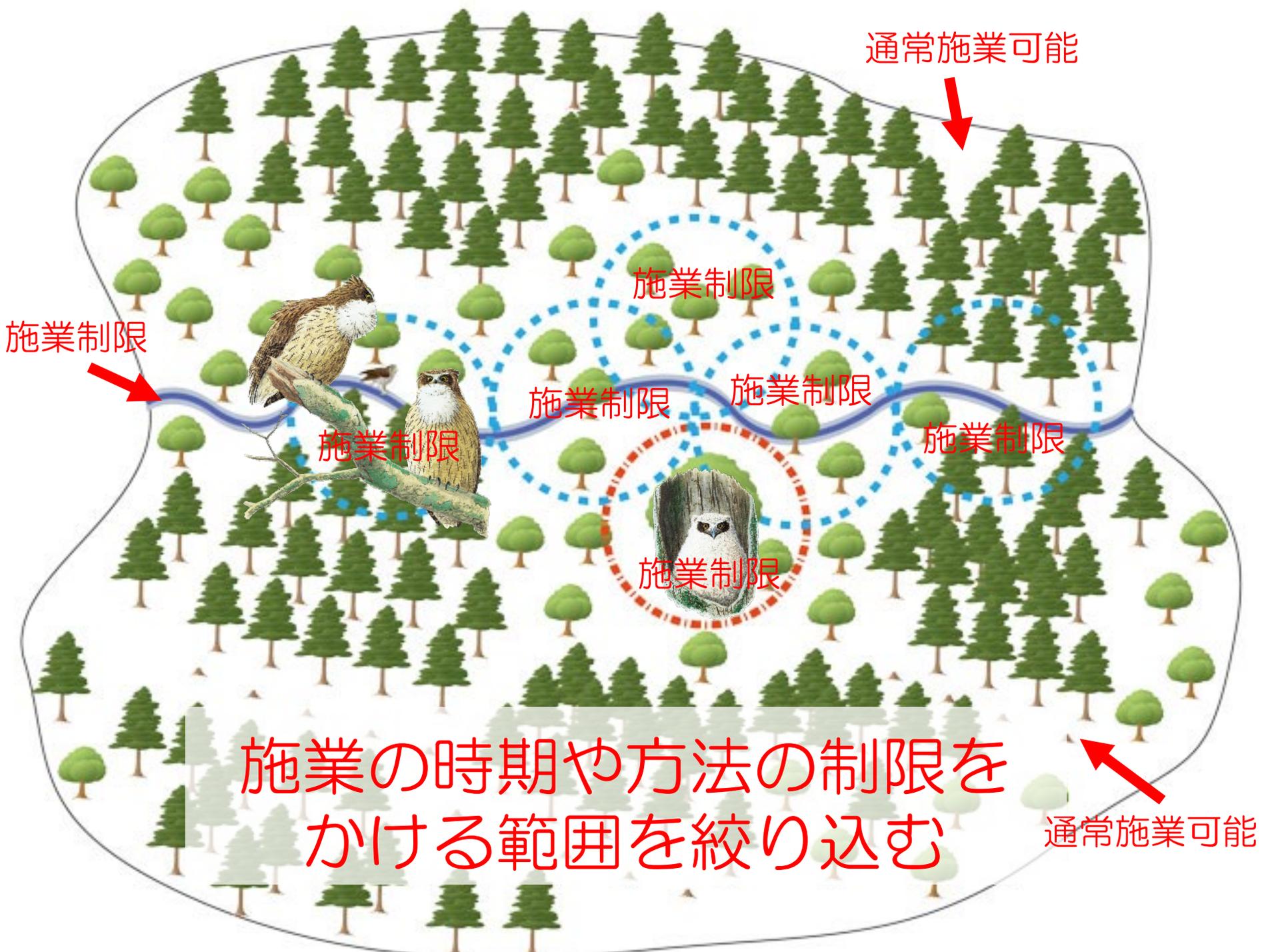
シマフクロウの住んでいる森を、
林業などの利用を継続しつつ生息地を保全します。



野鳥保護区とは異なる保全のかたち



利用状況調査を実施し、
よく利用している範囲を抽出



施業の時期や方法の制限を
かける範囲を絞り込む

共同活動計画をたてて 毎年の生息地保全活動を実施



自然の状態を調べるモニタリング調査や共同巡回、伝える活動などを毎年実施しています。



シマフクロウの巣箱設置

毎年共同で巡回して森林の状態を確認。
次年度の施業についても、生物への影響を相談して調整。



生息地の買い取りは
ゴールではない？

野鳥保護区における活動

1. 生息地の維持

2. 保護区の実管理

3. 調査・研究

4. 伝える活動

1. 生息地の維持 ～繁殖環境の保全～

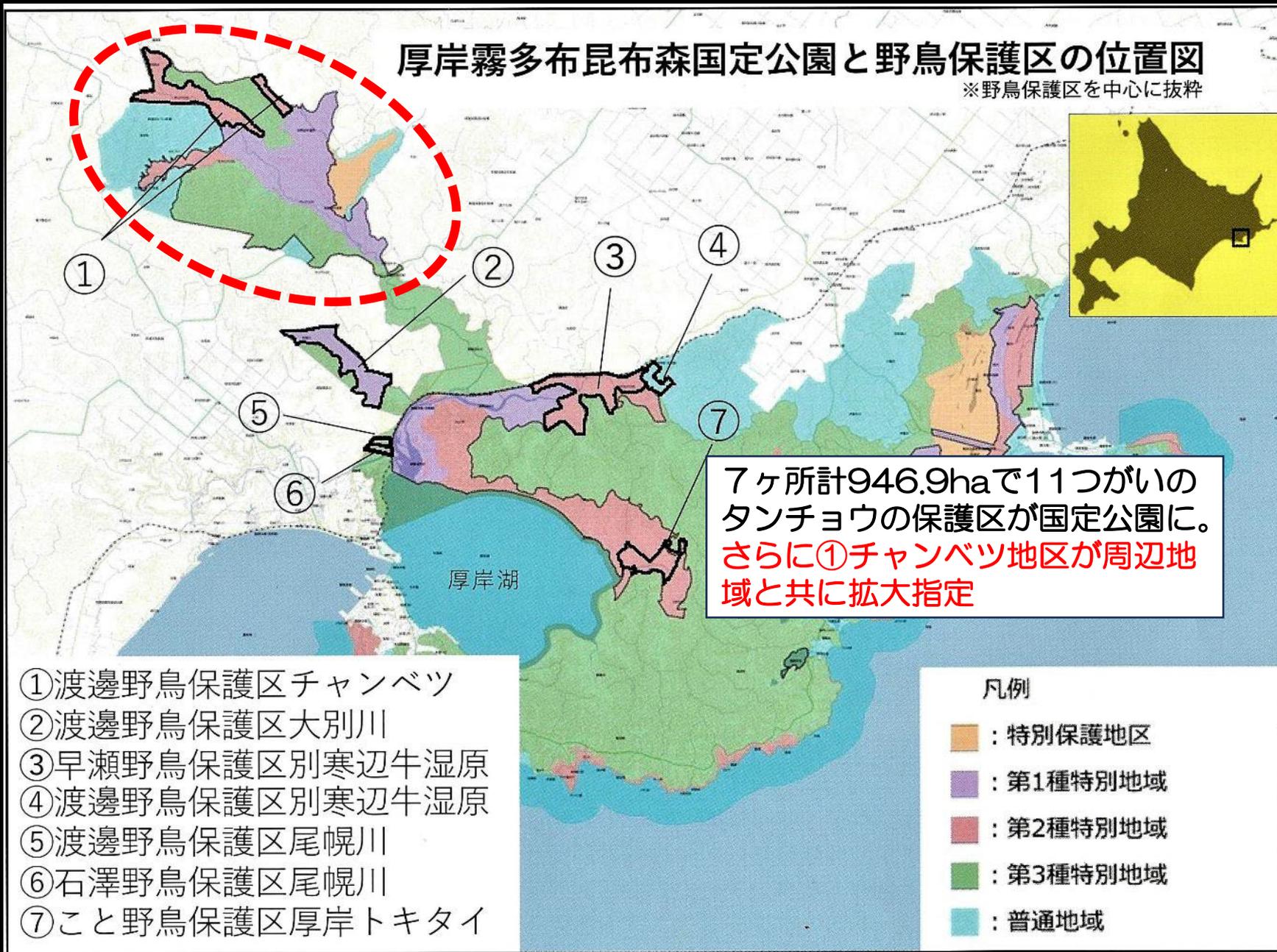


野鳥保護区区の設置（所有）により保全できた民有地の湿原や森は、法的な保護指定が開発に追い付かない土地の保全を先に進めている。
→後から保護指定されることも

▲7つの保護区が国定公園に登録(2021年3月)

厚岸霧多布昆布森国定公園と野鳥保護区の位置図

※野鳥保護区を中心に抜粋



渡邊野鳥保護区フレシマが自然共生サイトに認定！



2030年までに陸と海の30%以上を保全する国際目標「30by30」達成に向け、環境省が生物多様性の高い民有地等を「自然共生サイト」に認定する事業に協力し、同保護区が認定(2023)

2.保護区の管理



野鳥保護区の管理



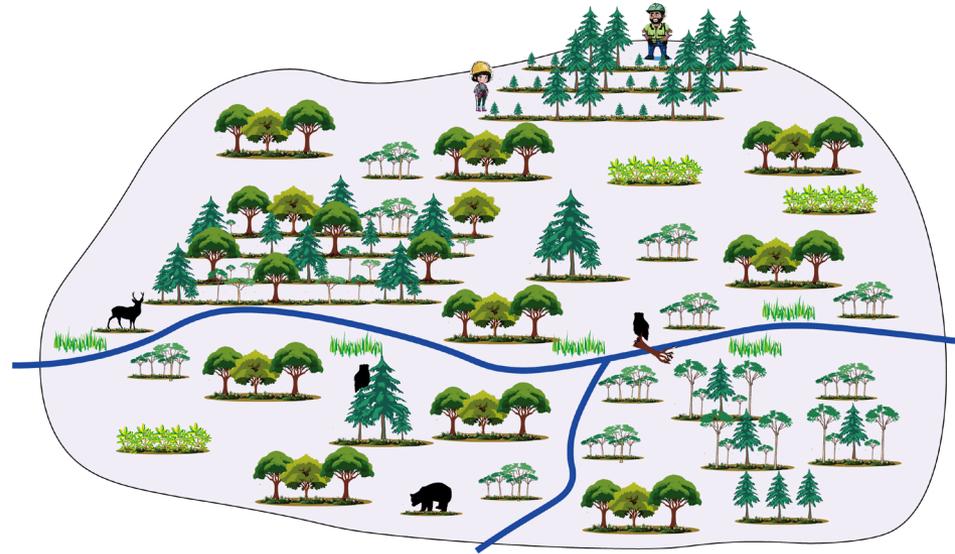
野鳥保護区の巡回



野鳥保護区への立入を制限するための看板設置



ネイチャーポジティブを目指した環境管理



3. 調査・研究

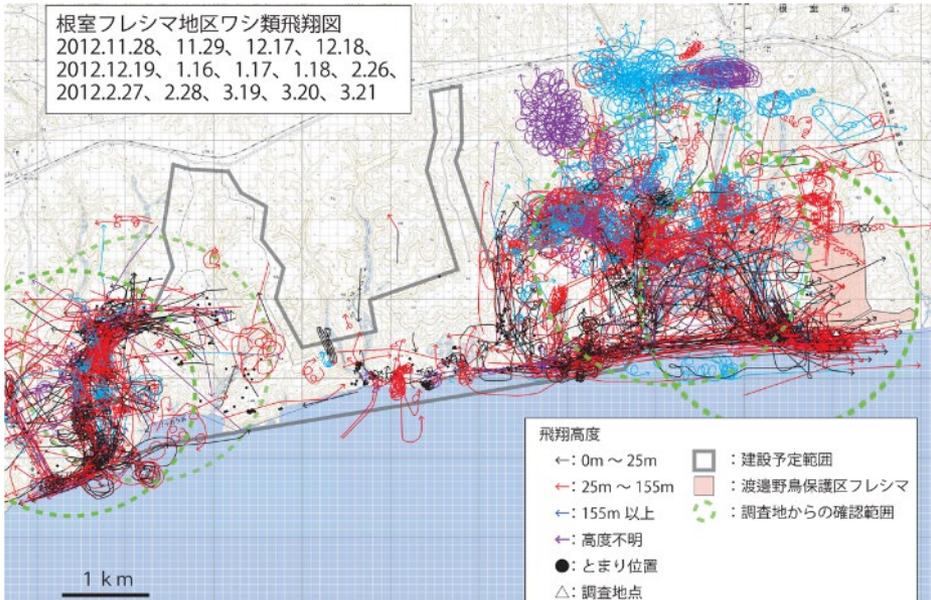




タンチョウ・オジロワシの繁殖状況確認調査



オジロワシ飛翔行動調査



根室市フレシマ地区
風力発電建設で意見書
 日本野鳥の会 計画見直し求める

根室市フレシマ地区の風力発電建設計画について、日本野鳥の会は、建設予定範囲の拡大や調査の不足を指摘し、計画の見直しを求めた。建設予定範囲の拡大は、調査の不足を指摘し、計画の見直しを求めた。建設予定範囲の拡大は、調査の不足を指摘し、計画の見直しを求めた。

建設場所の写真を示しながら野鳥への影響を懸念する
 松本さん(右)

野鳥の会が海上調査を実施
 根室・風力発電所計画地沖で

根室市での大規模な風力発電所の新設計画に反対する日本野鳥の会(以下「野鳥の会」)が、30日(土)の午後に、建設予定地沖に海上調査を実施した。

30日は、日本野鳥の会本部・根室支部の会員、知床野鳥研究会のメンバー9人が参加し、着陸機から借りつけた無人気球を飛ばし、双眼鏡で風の下の海上の様子を観測し、調査結果を写真やビデオで撮影した。

海上からオジロワシなどを観察する
 野鳥の会の会員ら(右)は、根室市沖

根室・フレシマ風力発電
反対決議を採択
 野鳥の会道ブロック協

根室市での大規模な風力発電所の新設計画に反対する日本野鳥の会(以下「野鳥の会」)が、30日(土)の午後に、建設予定地沖に海上調査を実施した。

根室市での大規模な風力発電所の新設計画に反対する日本野鳥の会(以下「野鳥の会」)が、30日(土)の午後に、建設予定地沖に海上調査を実施した。

4. 伝える活動





子供を対象とした観察会



研究者との交流や情報交換



地域内外向けの観察会



身近にある自然環境を知ってもらう。

■野鳥保護区の種類と課題

① 企業との協定・覚書締結による野鳥保護区

CSRの一環として、社有林のうち希少種が生息する地区の保全を進めています
でも、希少種の生息位置が公開されるのは避けたいので登録できない

② 個人との協定締結による野鳥保護区

土地は売れないけれど趣旨に賛同してくれる方と共同で保全を進めています
メリットは？

③ 土地買収（または寄贈）による野鳥保護区

土地を買うには税金がかかる。売る方にも税金がかかる。寄付にも税金がかかる。
なかなか土地買収が進まない原因のひとつ

★すべての野鳥保護区で調査ができるわけではない

調査には人手とお金がかかる。登録に必要な情報を集めるのは大変
中小企業の社有地内の環境保全などでも同じ声が聞かれる

30by30達成のため、仕組みの整備と、参加する個人や法人に優遇措置を

日本野鳥の会からの提案

保護地域とOECMで30by30を達成することを、
生物多様性保全上有効な取組にするために

- 1) 希少鳥類の生息地情報を守りつつ登録可能な方法へ
- 2) OECMに該当する地域の所有者等への優遇措置
- 3) Key Biodiversity Areas (KBA)の国内での選定と、OECM認定基準のひとつとしての採用